

令和 7 年 1 月 5 日
文 教 委 員 会 資 料
指 導 課

令和 7 年度品川区学力定着度調査および令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について

○令和 7 年度品川区学力定着度調査の結果について

○令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年度 品川区学力定着度調査の結果について

1 調査日 令和7年4月15日(火)
 2 調査対象 小学校・義務教育学校(前期課程)
 中学校・義務教育学校(後期課程)
 3 調査対象人数 第2~6学年 14,521人
 第7~9学年 4,845人
 4 調査内容
 (1) 教科に関する調査
 第2、3学年 国語、算数
 第4、5学年 国語、社会、算数、理科
 第6学年 国語、社会、算数、理科、英語
 第7~9学年 国語、社会、数学、理科、英語
 (2) 生活習慣や学習環境に関する調査
 • 総合質問紙調査(自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣に関する意識について)

5 各教科の平均正答率(%)

※黄色の部分は、全国より高い正答率。ピンク色の部分は、全国より低い正答率。

<第2学年>			<第4学年>			<第5学年>			<第6学年>			<第7学年>			<第8学年>			<第9学年>		
	品川区	全国																		
国語	82.0	78.4	国語	71.8	66.8	国語	73.2	66.2	国語	71.7	66.4	国語	67.4	64.5	国語	67.1	65.0	国語	65.5	61.3
算数	86.8	85.4	社会	72.0	69.1	社会	72.1	66.1	社会	73.1	69.2	社会	55.0	53.5	社会	44.4	45.6	社会	45.1	45.1
<第3学年>			算数	75.8	72.4	算数	73.4	67.9	算数	69.1	60.9	数学	71.3	66.8	数学	59.9	53.6	数学	60.8	52.5
			理科	58.7	56.7	理科	62.1	59.5	理科	67.5	65.7	理科	52.0	52.6	理科	46.3	48.7	理科	52.0	50.8
			国語	72.0	67.7	国語	85.9	80.1	国語	85.7	81.4	国語	57.1	51.3	国語	59.0	52.2	英語	59.0	52.2
			算数	77.0	75.6															

6 教科に関する調査の結果概要

赤数字および赤線は、その教科の目標値(※)を示す。

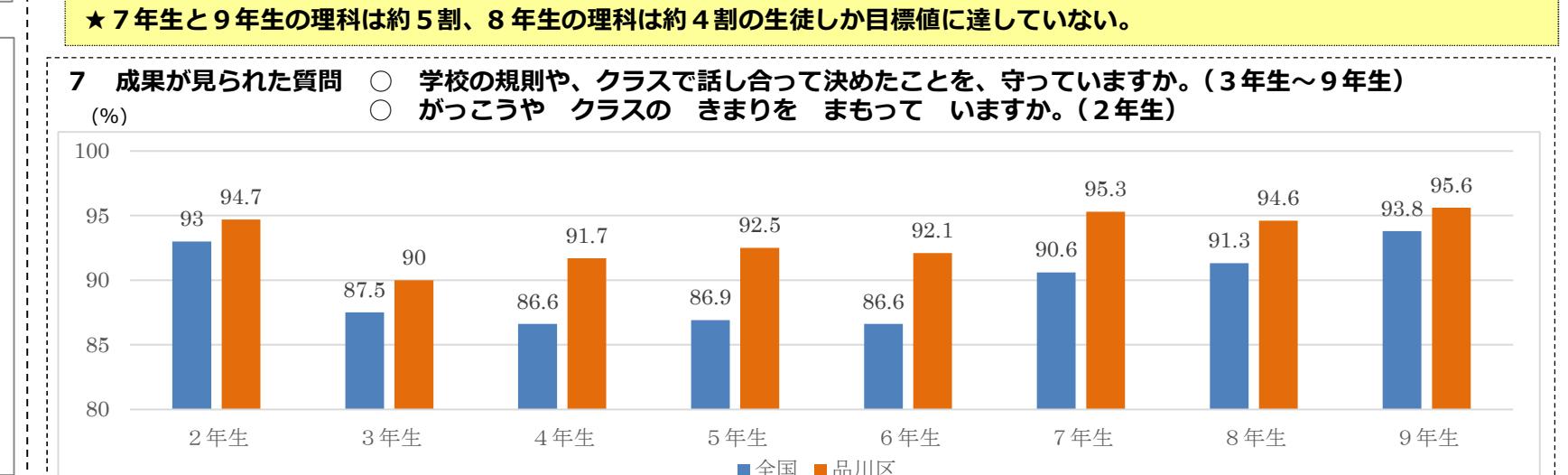
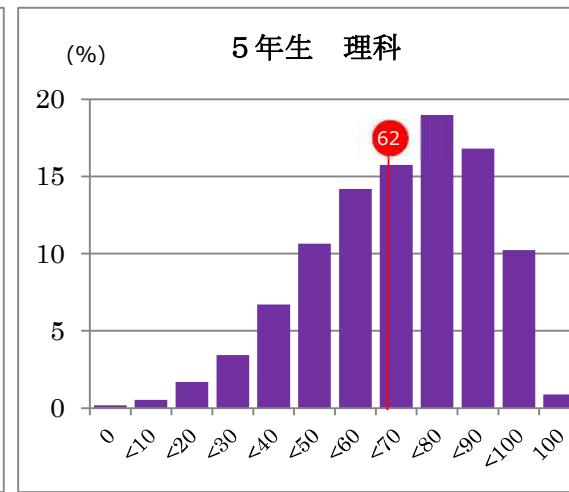
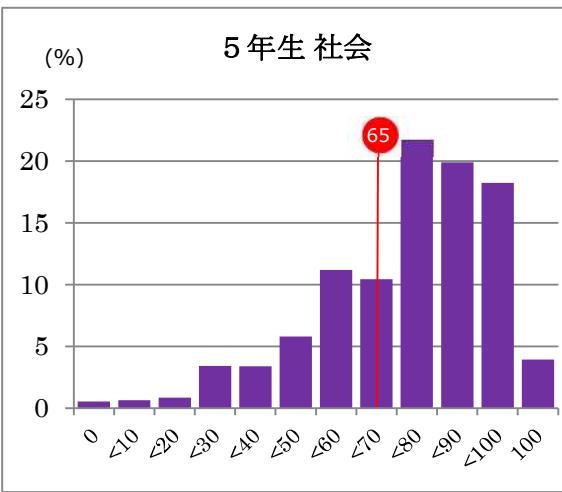
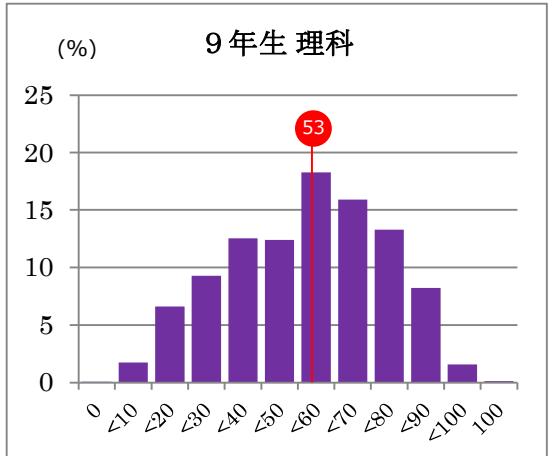
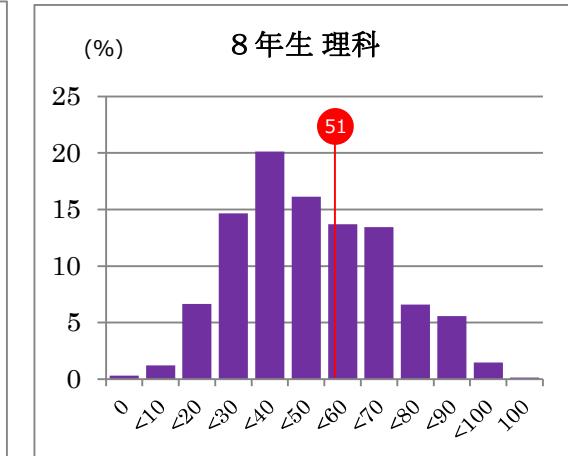
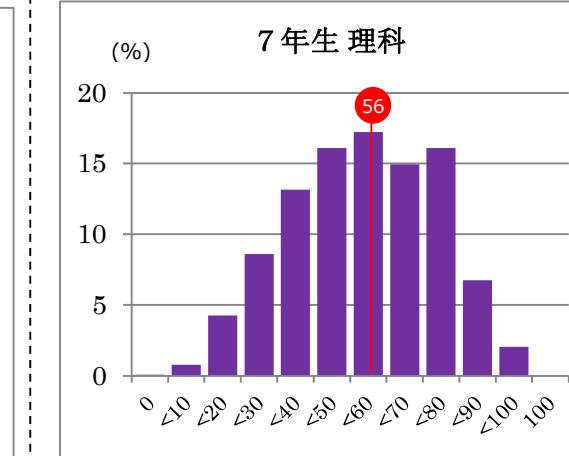
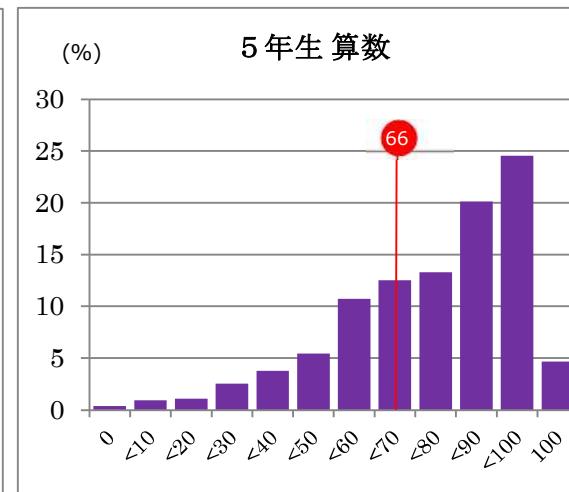
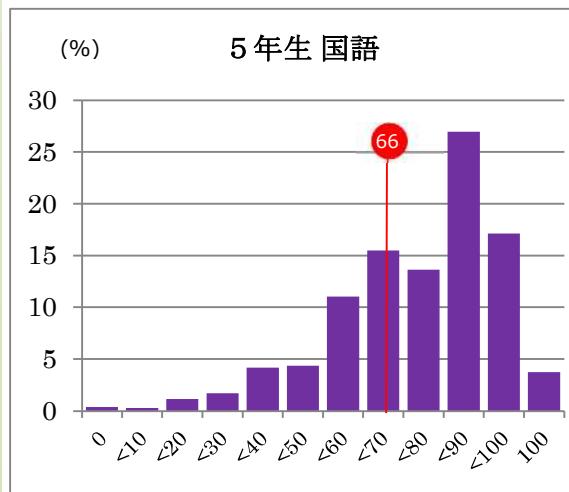
※教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した正答率。

横軸は、表示の数値未満をしめしている。

例 「<30」 → 20%以上30%未満

※ただし、0と100はそれぞれ0%、100%を表す。

【第5学年における各教科の正答率分布グラフ(横軸：正答率、縦軸：割合)】



★ 5年生の国語、社会、算数は、約7割の児童が目標値に達している。5年生の理科は、約5割の児童しか目標値に達していない。

全ての学年で「いつも守っている」「だいたい守っている」と肯定的な回答をした児童・生徒が、全国の肯定率よりも高かった。義務教育9年間を通じた系統的な市民科の学習により、秩序形成能力や公徳性等の市民としての資質と能力が身に付いている。

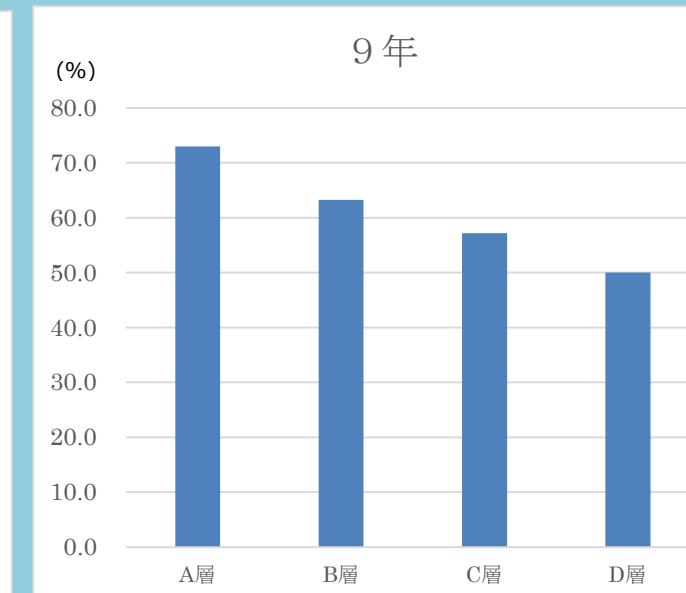
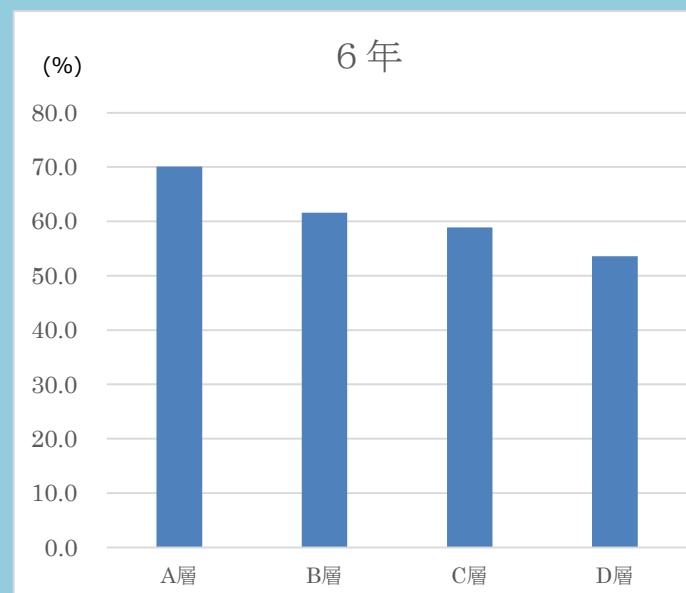
令和7年度 品川区学力定着度調査 クロス集計について

＜クロス集計＞ 区学力定着度調査では、授業や教科等の質問と正答率の相関関係を調査するためのクロス集計を実施している。これらの分析により、指導方法工夫改善等に生かしていく。

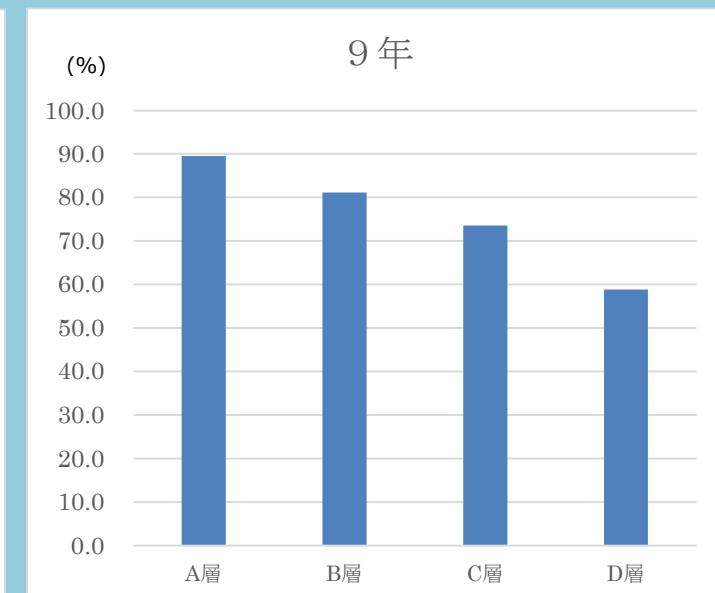
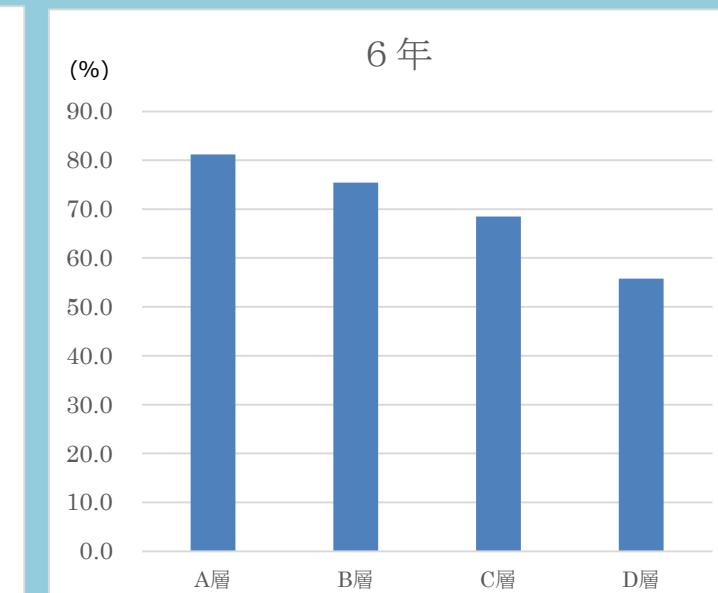
(1) 教科を統合したクロス集計

※ グラフの縦軸は、肯定率を表す。グラフの横軸は、品川区の正答率分布を上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類したものを表す。

○ あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。



○ テストでまちがえたときは、なぜまちがえたのかを考えていますか。

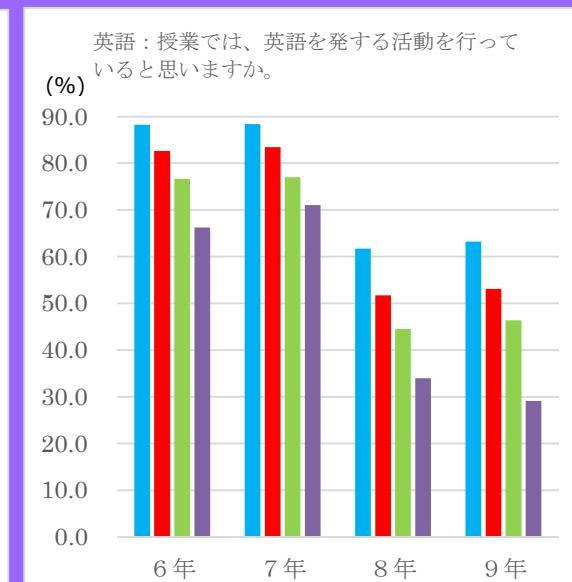
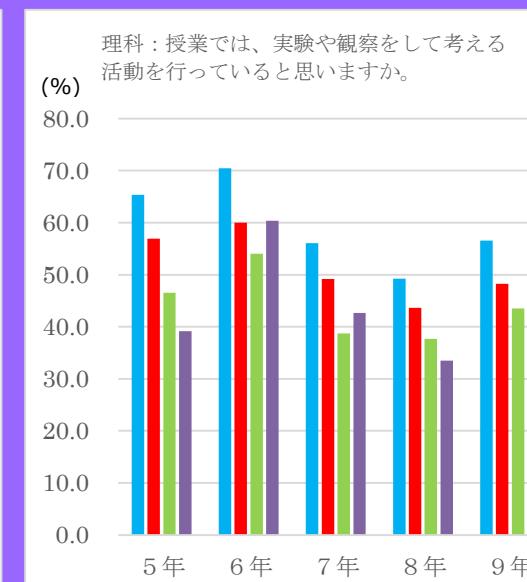
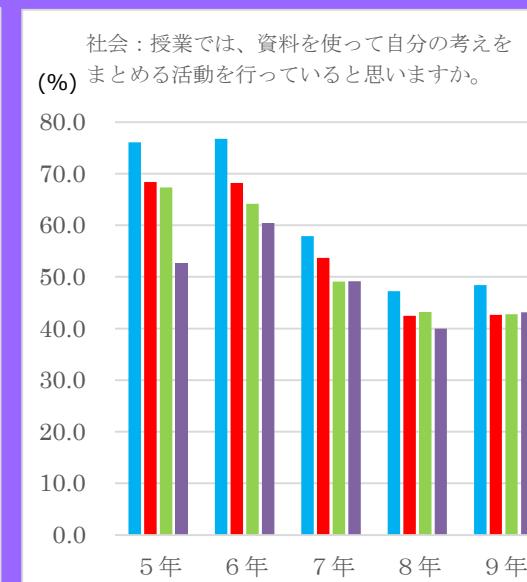
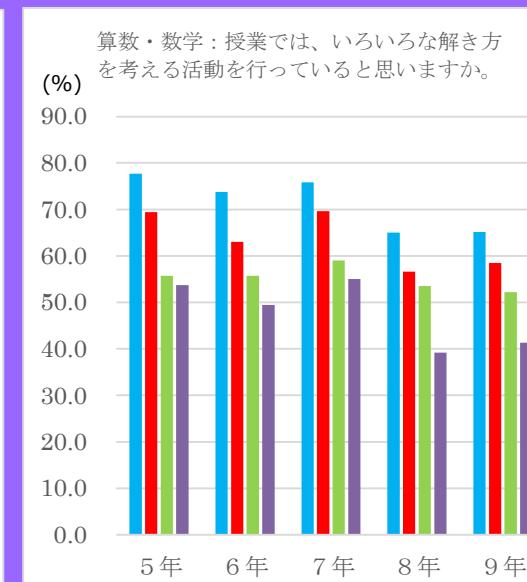
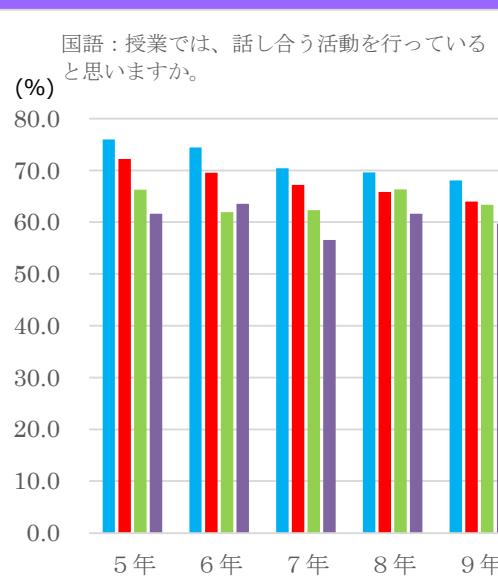


6年・9年共に「いつも調べている」「だいたい調べている」と肯定的な回答をした児童・生徒の方が、正答率が高い傾向がある。

6年・9年共に「考えている」「ときどき考えている」と肯定的な回答をした児童・生徒の方が、正答率が高い傾向がある。

(2) 各教科におけるクロス集計

■ とてもそう思う ■ まあまあそう思う ■ あまり思わない ■ そうは思わない ※ グラフの縦軸は、平均正答率を表す。



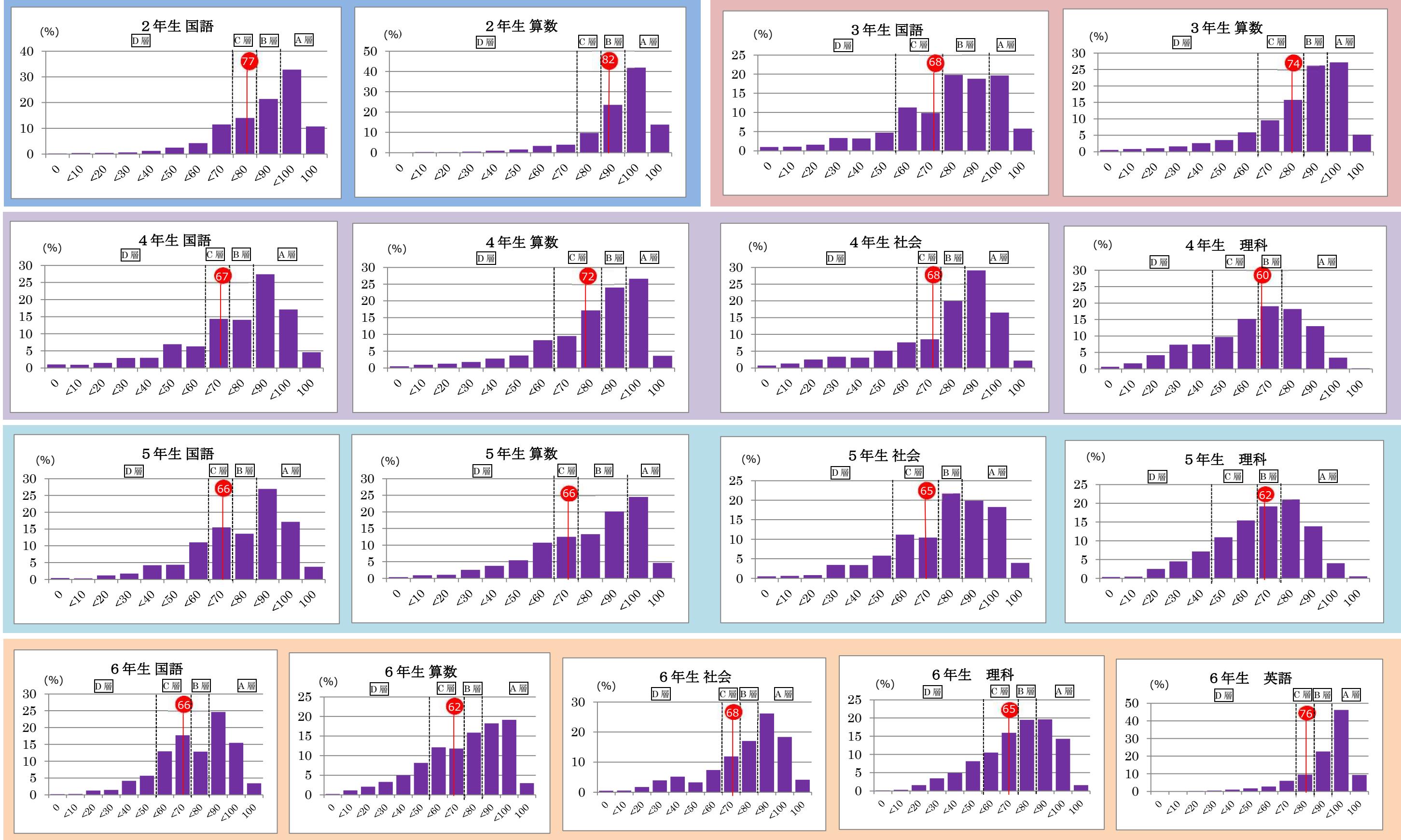
どの教科においても、「とてもそう思う」と答えた児童・生徒の正答率が高い傾向がある。

令和 7 年度 品川区学力定着度調査 正答率分布 (小学校および義務教育学校前期課程)

品川区の正答率分布を上位層 (A 層) から下位層 (D 層) までの 25% 刻みで 4 層に分類した。赤線はその教科の目標値(※)を示す。

※ 教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した正答率。

横軸は、表示の数値未満を含めている。
例 「<30」 → 20%以上 30%未満
※ただし、0 と 100 はそれぞれ 0%、100%を表す。

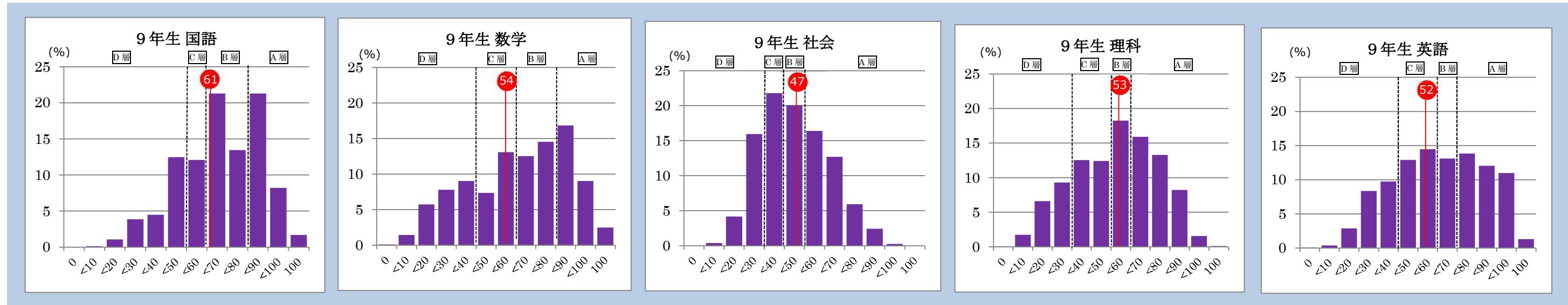
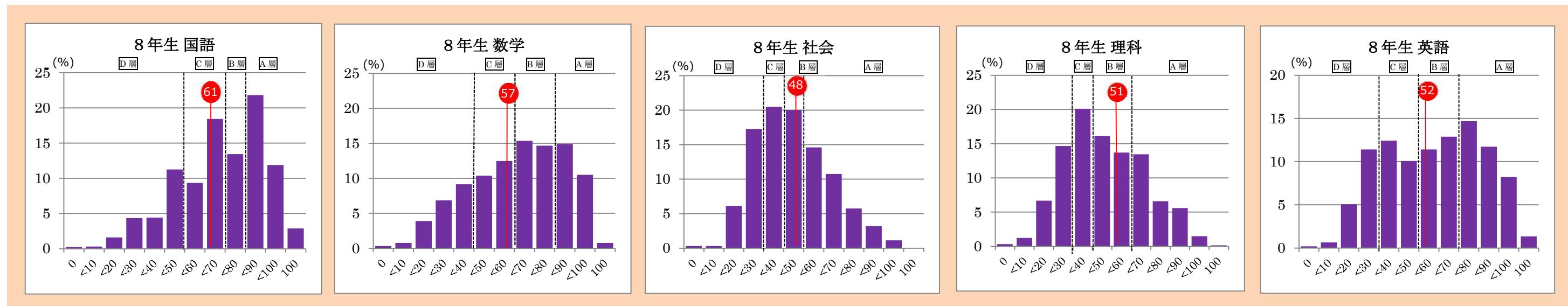
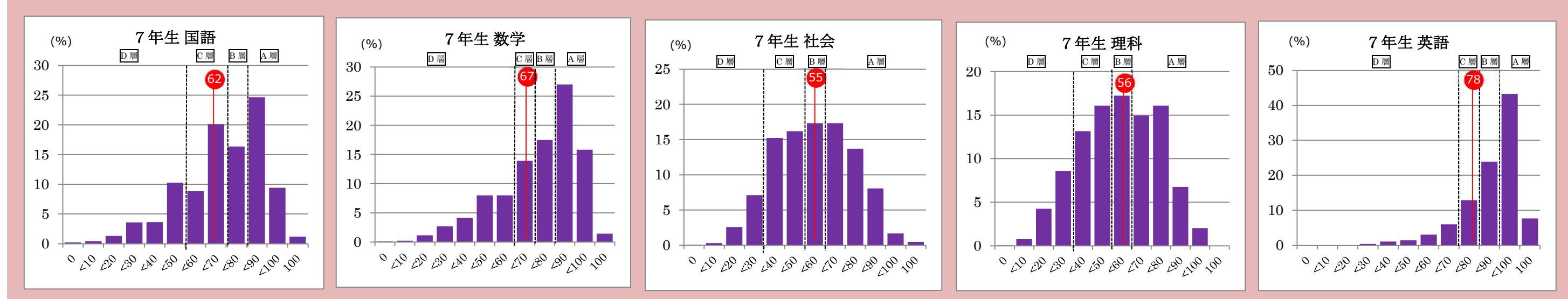


令和7年度 品川区学力定着度調査 正答率分布（中学校および義務教育学校後期課程）

品川区の正答率分布を上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類した。赤線はその教科の目標値（※）を示す。

※ 教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した正答率。

横軸は、表示の数値未満をしめしている。
例 「<30」 → 20%以上30%未満
※ただし、0と100はそれぞれ0%、100%を表す。



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

資料 5

1 調査日	令和7年4月17日(木)
2 調査対象	小学校・義務教育学校(前期課程) 第6学年 中学校・義務教育学校(後期課程) 第9学年
3 調査人数	第6学年 2,816人 第9学年 1,598人

4 調査内容
(1) 教科に関する調査 国語、算数・数学、理科(※9年理科はC B T)
(2) 生活習慣や学習環境に関する調査 ・児童・生徒質問紙調査〔学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等〕 ・学校質問紙調査〔指導方法に関する取組等や人的・物的な教育条件の整備等〕

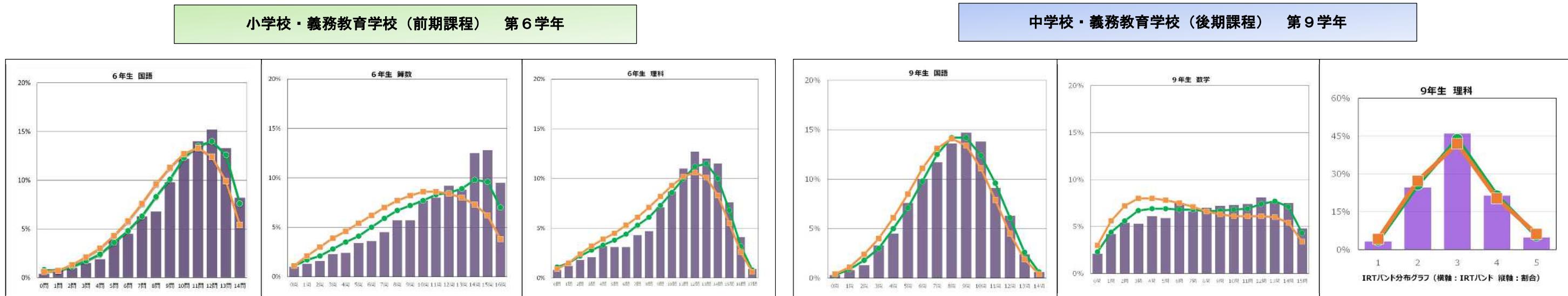
5 各教科の平均正答率(%)	(※9年理科はIRTスコア集計値)		
6年	品川区	東京都	全国
国語	71	70.0	66.8
算数	69	64	58.0
理科	63	60	57.1
9年	品川区	東京都	全国
国語	58	57	54.3
数学	55	53	48.3
理科	508	506	503

※中学校理科ではIRT(_ITEM RESPONSE THEORY: 項目反応理論)を活用して分析。

6 教科に関する調査の結果概要

【正答数分布グラフ(横軸: 正答数、縦軸: 割合)】

・第6学年、第9学年の全ての教科において、平均正答数および第9学年理科のIRTバンド3と4の割合は、東京都や全国に比べて高い。



7 成果がみられる質問 <児童質問紙>

(質問番号6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



(質問番号48) 国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを教えてくれますか



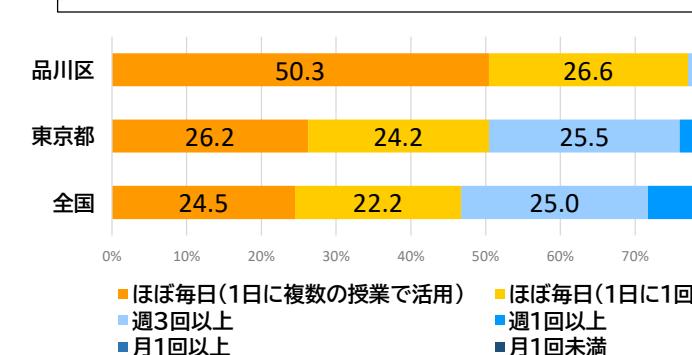
(質問番号16) 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



(質問番号58) 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



(質問番号28) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



(質問番号29-3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか



(質問番号30-6) 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6) 友達と考えを共有したりしやすくなる



教員は、良いところを認め、良いところや前よりもできるようになったところを児童・生徒に伝えている。児童・生徒は、自分で学び方を考え、工夫しており、どのように考えたのか説明する活動をよく行っている。ICT機器の授業における利用は、東京都や全国に比べて非常に高く、思考力・判断力・表現力の向上に資する活用となっている。

ICT機器の授業における利用は、東京都や全国に比べて非常に高く、思考力・判断力・表現力の向上に資する活用となっている。